

非発掘簡の資料価値の確立

主催 科研「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」 出土資料と漢字文化研究会
共催 日本女子大学文学部・同大学院文学研究科

基調報告	谷中信一教授（日本女子大学）
学術報告	
非発掘の簡帛及其学術価値	劉国忠教授（中国・清華大学）
北京大学漢簡〈摺輿〉と馬王堆帛書『陰陽五行』甲篇〈摺輿〉の対比研究	名和敏光准教授（山梨県立大学）
清華簡『子儀』的性質・国別和時代特徴	趙平安教授（中国・清華大学）
清華簡（伍）『命訓』の思想と成立	谷中信一教授（日本女子大学）
総合討論	司会 池澤優教授（東京大学大学院）

本シンポジウムのテーマである非発掘簡とは、正規の考古学発掘を経た出土資料と異なり、主に盗掘によるため発掘地点が不明で骨董市場から大学等の研究機関が入手あるいは寄贈されたものです。そのため、これまで学界ではその真偽が取りざたされ、扱いに慎重でした。しかし、上海博物館が所蔵する戦国時代の楚地方の竹簡群（『上海博物館藏戦国楚竹書』）をはじめとして、清華大学が所蔵する戦国時代の竹簡群（『清華大学藏戦国竹簡』）さらに北京大学が所蔵する秦漢期の簡牘群（『北京大学藏西漢竹書』 一部未発表）等は既に公開され、非発掘簡でありながら従来の学説に修正を迫る新たな知見を我々に提供しています。

そこで、本シンポジウムは非発掘簡における問題点等を分析整理し、非発掘簡が有する資料価値を考古学・歴史学・言語学（文字・音韻・語法等）・哲学・宗教学等の多角的視座から考察検討し、中国・戦国秦漢時代の社会の様相を総合的に明らかにしようとするものです。

日時 2016年3月11日（金）午後1時～午後5時30分

会場 日本女子大学新泉山館2階 国際交流センター会議室

- 使用言語 中国語（日本語による通訳あり）
- シンポジウム参加費 無料
- 懇親会参加費 一般 5,000円 学生 2,000円

連絡先 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学文学部日本文学科谷中研究室内
科研「出土資料と漢字文化研究会」事務局
TEL/FAX 03-5981-3533
E-mail yanaka2014kaken@yahoo.co.jp

本研究はJSPS科研費 26284010の助成を受けたものです。